

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393800186		
法人名	社会福祉法人白寿苑		
事業所名	グループホーム小牧白寿苑 (楓ユニット)		
所在地	愛知県小牧市大字岩崎字山浦1432番地70		
自己評価作成日	令和6年8月1日	評価結果市町村受理日	令和7年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2393800186-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和6年9月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ボランティア等の外部者の受け入れはできていないが、ご家族ご協力とご理解をいただきながら社会生活の継続を心掛けている。
 ・訪問看護ステーションと業務提携を結び、健康管理や緊急時24時間対応ができています。
 ・国家資格である介護福祉士の有資格者が全体の9割超と専門性の高いサービスが提供できています。
 ・バリアフリーで設備面においても充実しており、ご利用者が重度化した場合も対応が可能。
 ・併設施設に特別養護老人ホームがあり、ご利用者の状態に応じて連携している。
 ・QC活動では、檜ユニットと合同で「レクリエーションを通して交流し、生活の充実を図る」をテーマに、入居者のニーズを確認しながら様々なイベントを計画、実行している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、グループホームを他にも、特別養護老人ホームやデイサービスと併設して運営していることで、利用者や家族の様々なニーズに対応した支援が行われていることが特徴でもある。利用者の段階に合わせたグループホームから特養、逆に介護度が下がった方が特養からグループホームに移行する等、事業所間で連携した支援が可能な体制がつけられている。感染症問題が長期化していることで、利用者の入居前からの関係の方との交流が困難な状況が続いていたが、運営法人での検討を行いながら、外部の方との交流が徐々に緩和されており、当ホームでも家族をはじめとする外部の方との交流が再開されている段階でもある。利用者の外出についても制限の緩和が進められており、利用者がホームの外に出る機会につなげる取り組みが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. ほぼ全ての利用者が 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人の基本理念である「敬愛」の気持ちを持って、利用者を第一に考える支援を心掛けている。また、朝礼にて「モットー」を唱和し、理念を共有して実践につなげていくよう努めている。	運営法人の基本理念でもある「モットー」を職員による支援の基本に考えながら、毎日の朝礼の時間に職員間で唱和する時間をつくっている。また、職員が目標を振り返りを行う機会をつくり、理念(モットー)の共有と実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地区の区長や民生・児童委員の方々と定期的な面談で情報交換を行い、地域の老人会との連携が図れるよう進めている。また近隣で行われた介護相談会に参加し、介護保険や施設サービスについて講義したが、感染症のリスクがあるため最低限としている。	地域の方との交流については、法人の第三者委員の方が地域の方でもあることで、感染症問題が長期化している中でも交流を継続する機会にもつながっている。徐々に制限の緩和が行われており、ボランティアの方の受け入れを再開している。	感染症問題が長期化したことで地域の方との交流が限られた範囲となっていることもあるため、今後の感染症問題の状況をみながら、段階的に活動の再開につなげることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域包括支援センターとの協同にて地域の方に認知症についての理解を深めいただくための機会を設けるよう努めているが、現在はコロナ渦において積極的な交流ができていない。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議にて、運営状況を市役所、地域包括、地区の関係者、利用者家族に説明。ご参加いただいた方々から意見をいただき、施設運営に活かすよう努めている。 今年度は感染予防対策に伴って参集できなかったこともあったが、その際は参加者に資料を配布し、意見を賜っている。	会議については、対面方式での実施が行われており、会議の関係者との定期的な情報交換の機会にもつながっている。また、毎回の会議に市職員の出席が得られており、併設事業所と合わせて情報交換等に機会につながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議にて毎月の入居者数報告や入退所状況をその都度行っている。また、サービス面や苦情への対応、事故報告および対応、相談・確認など密に連携をとり、協力関係が築けるよう努めている。	市内の介護事業所と開催している「介護展」にホームからも参加、協力する取り組みが行われており、関係部署との情報交換等の機会につながっている。また、併設のデイサービス等とも連携しながら、地域包括支援センターとの交流が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	内部研修等にて、身体拘束による危険とリスクを職員に正しく理解してもらい、利用者の尊厳を重視して、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいく旨を、全職員に周知している。	身体拘束を行わない方針は、併設事業所を含めて行われており、定期的な委員会を通じた検討や職員研修についても、事業所全体で行われている。日常的にも、ホームのフロア内を開放する等、利用者が自由に移動ができるような生活環境がつけられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束廃止・高齢者虐待委員会から情報を発信し、不適切なケアを行わないよう職員間で協力して支援している。小牧市事業所連絡会が主催する研修にも参加し、職員に周知している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在は家族がいない利用者はないが、いつでも関係機関と情報提供し合いながら手続きを円滑に進められるよう連携を意識している。また、権利擁護に関する制度理解のため、職員へ外部からの研修案内等を随時供覧し、参加を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項の説明や契約については十分な時間を設け、ご質問に対しては真摯に回答することで、本人およびその家族にご理解いただけるよう努めている。利用料等改定時には事前に家族へ周知し、承諾書をもって改定することとしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	小牧市介護相談員の訪問により、利用者の意見を確認するが、コロナ渦において中止にしている。家族には電話による近況報告の際、ケアプラン見直し時に意見や要望を確認している。玄関に意見箱を設置してご意見をいただいたり、第三者委員を設置して相談窓口を置くなど、サービスの向上に努めている。	外部の方との交流に関する制限が緩和され、ホームでも面会等の機会がつけられている。重要事項説明書に第三者委員を明示する等、利用者や家族の要望等の把握につなげる体制につなげている。また、毎月のホーム便りの作成が行われている。	利用者と家族との交流の機会が制限されている状況が続いていることもあるため、様々な状況をみながら交流会等の再開等、今後に向けたホームの取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は主任会議等に参加し、職員からの意見や提案を聞く機会を設けている。さらに、職員個々の面談を通じて職員の意見を反映させていけるよう心掛けている。また、管理者は職員と同じ勤務体制をとっており、常に施設内で起こっている状況を把握できる状態である。	職員会議が行われている他にも、日常的にもリーダーを中心に職員間で意見交換を行い、施設長(管理者)や生活相談員を通じて、ホームの運営への反映につなげている。また、施設長による職員面談を実施し、一人ひとりの把握につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職場の意見を聞きながら、必要なものを整備するよう努めている。職員の勤務状況や保有資格、スキルについて人事考課にて適正に評価できる仕組みがある。ストレスチェックアンケートを実施し、職員のメンタルケアを実践している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	市や県その他各種団体で主催される研修や講演案内を、職員に供覧し、常に職員に情報提供している。職員から出席希望があれば、出席できるよう配慮するとともに、認知症高齢者の実践者研修等重要な研修は、費用負担する場合もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	小牧市の事業者連絡会に加盟し、事業所間の交流や情報交換に努めている。今年度は徐々にオンラインから直接交流に切り替わっている。		

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前の事前面談で本人の生活歴等をよく聞き、スムーズな入所に繋がるよう心掛けている。さらに入所後にもこれまでの生活歴や趣味などの詳細を記録していただき、その内容を参考に対応するように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所申し込み時に施設見学や説明を行い、家族の現状、入居において心配なこと、新たに生じる不安などを傾聴。現場職員にもこのことを伝え、関係づくりを徹底している。入居後も独自のアセスメントシートを活用してこまめに情報交換を実施し、信頼関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	事前の面談時に、利用予定者やその家族の思い等をよく確認し、ここでのサービスが本人や家族の求めているサービスに合うのか見極めて対応している。サービスが合わない場合は、他の機関への紹介をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員は、掃除や洗濯物たたみ、メニュー書き等、日々の共同生活の中で起こる作業について、その方の得意不得意を深く理解して、作業をお願いしている。やっていただけたら「ありがとう」と感謝の言葉を伝え、利用者の方と協働しながら安心と安楽な生活を送っていただけるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	感染症対応により別室で短時間の面会を実施。2週間毎に電話による近況報告や、毎月発行する「ユニット便り」で利用者の様子を知らせしている。本人の日頃の状態を施設サービス計画書等で報告、相談するようにして、家族が事業所に介護をゆだねつきりにせず、常に関心をもってもらえるよう働きかけをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	関係者や知人の面会時の配慮はもちろん、近隣への散歩や外出、家族への働きかけを行い、馴染みの地域にお住まいであるという安心感を持ってもらっている。身内や友人が立ち寄れる環境づくりに努めている。 ※コロナ渦において外部との交流は中止している。	併設事業所と連携した支援が行われていることで、利用者に近い関係の方が併設事業所を利用する等、関係継続の機会にもつながっている。家族との外出については、感染症の状況もみながら徐々に制限を緩和している段階である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	毎日の生活の中で職員が入居者に話しかけたり、活動等を通じて利用者同士の間関係が円滑になるように働きかけている。また、経過記録等で情報を共有しながら支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	施設や事業所が変わっても求めに応じて支援を行うよう努めている。又、同法人内であれば施設に出向き、挨拶や声かけを行うようにしている。長期入院者によって一時退所された方についても、症状の回復により優先的に再入所していただくよう努めている。逝去された方の家族に法要の時期をみてハガキを送っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様の過ごし方は個々で異なるため、可能な限りその入居者の移行に合わせながら、日々の関わりの中での声掛けを行う。また担当者会議にて利用者のニーズを職員間で共有し、快適に過ごしていただけるよう努めている。	職員間で利用者を担当する取り組みも行いながら、利用者に関する意向等を把握し、職員間での共有につなげている。また、定期的なカンファレンスを実施し、利用者や家族の意向を検討し、アセスメントの実施や日常の支援に反映する取り組みが行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に「歩いた道」という定型様式にて、本人の生活暦を家族様から伺っている。入所後も日常会話からこまめに本人から伺うように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日頃より職員が注意深く観察し、ミーティングや職員会議などで情報を共有するよう努めている。日々の生活の中で本人のできること、有する能力の現状把握に努め、ケアプランに反映させている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人および家族から気づいた点や要望など傾聴することに心掛けている。また、日々の訴えや生活状況・家族の意見や希望をアセスメントしケアプランに作成する。また、モニタリングを通して職員の意見を支援計画に反映している。職員会議にて日々のケアについて話し合い、情報交換や共有を行うよう努めている。	介護計画については、6か月を基本に見直しが行われており、一人ひとりに合わせた支援内容の検討が行われている。また、日常的にも支援内容に関するチェック記録を残しており、利用者の変化等を把握し、定期的なモニタリングにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者の日々の身体的・精神的状況や様子・状態、生活状況を介護記録として残し、その情報も含めサービス担当者会議を行いながら介護計画を見直し、日々のケアの実践に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者の様子など些細なことでも申し送り、情報の共有、改善点も考えてケアにつなげている。身体の変化などはご家族に連絡し、要望をお聞きしながら対応を検討している。設備面は機能的にできている(トイレは全て介助用・入浴は機械浴も整備)。状況によっては家族に代わって書類申請などの支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の公園への散歩、コンビニエンスストア、喫茶店への外出を計画。近隣の公的施設や遊技場などを把握し、親しんだ地域で楽しんでいただけるよう努めている。最近は感染予防対策のため実施できていないが、地域の方々と連絡を取り合い、信頼関係の継続している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	家族の希望により当苑の産業医を紹介し、訪問診療をお願いしている。緊急性の高い場合の診察においては職員が受診支援を行い、夜間の緊急時には協力病院ドクターカーの要請も可。	協力医による医療面での支援が行われており、利用者の健康状態に合わせた対応が行われている。また、ホームで訪問看護による医療面での支援が行われている他にも、併設事業所に看護師が勤務しており、急変時等にも対応できる体制がつけられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	利用者の健康状態については提携する訪問看護ステーションに報告および相談し、状況によっては主治医や協力病院に連絡して適切な受診ができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から協力病院のソーシャルワーカーとの関係を構築しており、施設で対応できる医療を周知いただくことに努めている。 長期入院による退所後も受け入れ可能となった時は、優先的に再入所していただくよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所前に施設でできること、できないことを家族に説明。併設する特別養護老人ホームと連携をとりながら、重度化しても十分な介護が受けられることを説明し、実践している。 終末期については、主治医、家族、施設職員が連携し、方針の共有に努めている。	身体状態に合わせて併設の特養への移行も可能であるが、ホームでの生活を継続できるように支援体制がつくられており、ホームでの看取り支援も行われている。利用者の段階に合わせた家族との話し合いを重ね、ホームで対応可能な内容の確認が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時対応マニュアルが作成されていることはもちろん、新人研修時や定期的に行われる内部研修において、応急手当やAEDの使用法、人工呼吸等の緊急時における訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防計画を消防署に提出しており、年に2回(昼間・夜間)の避難訓練を実施している。 区長や民生委員と情報交換会を行い、有事の際の協力を依頼している。	避難訓練等については、併設事業所も含めて事業所全体で行われており、夜間想定や通報訓練等、事業所間で連携した対応が行われている。また、備蓄品についても、事業所全体で必要な量を確保している。また、地域の方との協力関係もつくられている。	感染症問題が長期化したことで、地域の方との情報交換等が限られた範囲となっている状況が続いている。感染症問題の状況をみながら、災害に関する協力関係の取り組みにつながることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者の人格を尊重し、丁寧な声掛けを行っている。また、話の内容や排泄ケア等のプライバシーに配慮するように対応の徹底を図っている。日々の声かけなどについては言葉遣いマニュアルで周知し、正しい声掛けに努めている。	運営法人の基本理念でもある「モットー」には、職員による利用者への接し方についても掲げられており、日常的に職員が振り返り、意識向上にもつなげている。また、職員の接遇にもつなげる研修を実施し、職員の注意喚起につなげる取り組みも行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者ごとに担当職員を決め、その職員と気軽に話せる関係性を構築し、希望を傾聴するように心掛けている。 他者の前だとあまりお話しされない利用者も個別にお聞きすると要望を言われることがあるため、話しやすい環境になるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりの状態や思いに配慮しながら、利用者の気持ちを尊重して個別性のある支援を心掛けている。行事があるときは希望を伺い、楽しみのある生活ができるよう心掛けている。ケアプランに沿って個別ケアを実施して活気ある生活を過ごしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	寝る時はパジャマに着替え、起床時には普段着の着替えを支援したり、その人らしい装いが図れるように努めている。夏祭りには、希望者に浴衣を着ていただき、化粧のお手伝いをさせていただいている。訪問理美容にて整髪していただき、ボランティアによるハンドマッサージも喜ばれているが、感染症対策のため、現在は受け入れを中止している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事を楽しんでいただけるよう、季節の食材を取り入れていている。器にも工夫を行い、日に応じてランチョンマットやお盆など使い分け、気分を変えるような工夫をしている。「おやつ作り」や利用者の誕生日のお祝いでケーキ作りを行うなど、皆さんで楽しんでいただいている。	食事については、併設事業所の厨房から提供を受けており、利用者の身体状態に合わせた食事形態の対応も行われている。ホームのキッチンを活用したおやつ作りの取り組みを継続しており、利用者もできることに参加しながら楽しみの機会につなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	専門職員が献立を考え、栄養バランスは確保できている。また、利用者の咀嚼および嚥下能力に対応して様々な食事形態を提供している。摂取量を記録し、毎月実施する体重測定の記録と合わせて利用者の健康状態を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアの声掛けにおいては、利用者の気持ちに配慮し、一人ひとりの能力に応じた歯磨き支援に努めている。歯科医に口腔内の評価も受けており、必要に応じて歯科受診を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	トイレでの排泄ができるように入力する介護ソフトデータで排泄パターンを把握し、パットの使用方法も検討しながら個別に対応している。個々にあった声掛けをし、尊厳を守る排泄への取り組みに心掛けている。	利用者の排泄記録を電子記録の他にも表にも残すことで、日常的に情報交換を行い、一人ひとりに合わせた排泄支援につなげている。トレイでの排泄を基本に、排泄状態の維持、改善につなげている。また、訪問看護と連携した排泄支援も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食物や水分の適量の摂取、体操・レクリエーションによる運動を勧め腸内の活性化を図り、自然排便を促すよう努めている。必要に応じて医療機関への相談し、薬剤による排便コントロールの相談を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	入浴へお誘いする際、気分的に応じない方については時間をずらしたり、日程を変更するなど、その方の希望に沿った入浴を提供することで、入浴を拒否される方はいない。	利用者が週2回の入浴ができるように入浴が行われており、午前と午後を実施している。フロア内に機械浴の設置が行われていることで、身体状態の重い方の入浴にも対応している。また、季節等にも合わせた柚子湯や菖蒲湯等の入浴も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	施設側の時間の予定はあるが、一人ひとりの生活リズムは違うため、起床および就寝時間は強要することなく、それぞれのペースに併せて対応している。また、パジャマに着替えていただくなど安眠できるような支援に心掛けている。昼夜逆転にならないように昼間は運動を促したりイベントに参加してもらうなど、可能な限り努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員は薬剤情報に基づき、薬の効能や副作用を把握している。また、配薬においては確認事項をマニュアル化し、ミスがないよう対応している。服薬時は飲み終わるまで職員が確認している。服薬が変更された時はタブレットに入力し、職員間で情報共有を行う。さらに薬剤師と連携し、服薬方法等の相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	お掃除や洗濯物たたみなど、各利用者の得意分野を活かして役割分担を行っています。やりがいを感じ、楽しみや役割として実感していただけるような支援に努めている。また、レクリエーションにおいても同様に歌が得意な方、手先が器用な方など、その特徴を活かさせていただけるよう企画している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	通常であれば近隣への散歩や買い物などの外出を支援したり、近くの喫茶店や洋菓子店などに掛かけ、社会生活の継続を行っている。現在はコロナ渦において外出支援を中止している。	運営法人での検討を重ねながら、利用者の外出に関する制限が緩和されており、自動車を活用したドライブに出かける等、利用者の外出の機会が増えている。家族との外出の働きかけも行われており、個別に外出する機会がつけられている。	外出に関する制限が徐々に緩和されている段階でもあり、今後に向けて、利用者の外出の機会が増えることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	外出等で支払いが発生した場合においては、施設が必要に応じて立替払いする。支払う際は利用者にお金を渡し、利用者から支払うことで社会とのつながりを持っていただくよう支援している。 ※コロナ渦において外出は中止、館内の自販機にて購入する際に実施。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族や知人の方から外線にかけていただき本人につないでいる。また音声案内機器を使用して家族とコミュニケーションをとる方については、操作等のサポートを行っている。手紙についても同様に、利用者の希望に沿って支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	大きな窓から自然な光が室内を照らし、景色においても遠くまで見渡せる環境。ご利用者は常に職員を確認でき安心できる間取りとなっている。必要に応じ遮光したり、室温や湿度の調整、換気を行い快適に過ごして頂けるよう努めている。季節感ある飾りや花で生活に彩を添えながら、温かな家庭的な雰囲気の中で過ごして頂けるよう努めている。	ホームのフロア内は広い空間が確保され、出入り口も開放されていることで、利用者が日常生活の中で閉塞感を感じないような生活環境がつけられている。また、季節等にも合わせた飾り付けを行う等、利用者にも季節を感じてもらおう配慮も行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングの机は高さ調整ができ、自分にあつた快適な場所となっている。ご本人の落ち着いた場所でテレビを観たり、編み物、本や新聞を読むなど、また気の合う同士で談笑し寛いで過ごされている。状況に応じて座る場所を誘導し、皆さんが落ち着いて過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室においては、快適にお過ごしいただくため各部屋エアコン・床暖房、空気清浄機、洗面台が整備されている。部屋は広く空間を使用でき、ご自分の思い出の品、作品、写真を置いたりすることができる。家族との時間もゆったりと過ごしていただけるよう配慮されている。	居室には、利用者や家族の意向等にも合わせた好みの物等の持ち込みが行われており、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、居室に家具類の設置が行われていることで、持ち込みの少ない方も生活が可能な設備が整えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物はバリアフリーで、手すりも整備されているため、自分で移動しやすい環境になっている。居室には各自の名前を個々に合わせてわかりやすく表札するなど、出来る限り自立した生活が安全に送れるよう工夫をしている。		